



別寒辺牛



2012年3月発行
NO.27

平成23年度やちっこクラブ活動報告

平成21年度から、町内の子どもたちを対象とした会員制の自然体験クラブとしてスタートした「やちっこクラブ」。23年度は16人のキッズレンジャーが、5人のサポーター、4人の協力員と一緒に、月に1回のペースで、厚岸の自然について楽しみながら学習してきました。23年度も北海道大学厚岸臨海実験所の協力を得て、「海」の体験学習プログラムも盛り込み、充実した活動になりました。今年度の活動は次のとおりです。

- 5月8日 ・顔合わせをして事業説明をしました。
 - 6月12日 ・厚岸臨海実験所の実習船「みさご丸」に乗船し、大黒島周辺の海島などを観察しました。
 - 7月10日、17日 ・別寒辺牛川をカヌーで下り、夏の湿原を探索しました。
 - 9月11日 ・厚岸臨海実験所の実習船「えとぴりか」に乗船し、筑紫恋海岸のオオアマモ場の生物採集、観察しました。
 - 10月21日、11月3日 ・別寒辺牛川をカヌーで下り、秋の湿原を探索しました。
 - 10月14日、30日は雨のため中止しました。
 - 1月15日 ・港町からチカラコタンまで湖岸に沿って、厚岸湖の水鳥を調査しました。
 - 2月19日 ・全道一斉調査をかねて、お供山からワシ類の調査をしました。
- そして、3月下旬に23年度の終了式を行う予定です。

平成24年度も、子どもたちが楽しめるプログラムを検討中です。募集要領はあらためて案内しますが、ご興味のある方は水鳥観察館までお問い合わせ下さい。



どちらがオオワシ、オジロワシ？

海ワシ2種を下から見た成鳥の絵です。
どちらがオオワシ・オジロワシでしょうか？



ということで、答えは上がオジロワシ、下がオオワシでした。尾羽が白いからオジロワシというわけではないのです。白い部分がより大きくて、ひし形をしているのがオオワシなのです。ついでに肩に白い部分があり、足のももに相当する部分が白く、またおでこにも白い模様があります。

それに対してオジロワシは、尾羽は白いのですが、他の体は全体的にグレー系の色をしています。また、年をとるほど頭部が乳白色に変化していきます。

またワシの仲間に共通するところは、メスの方が大きいことです。上の図で下線を引いたところ、オジロワシのメスとオオワシのオスが、だいたい同じくらいの大きさなのです。

これら成鳥のワシでしたらすぐに判別できるのですが、幼鳥には図のようなはっきりとした白い部分がありません。そのため識別には少し慣れが必要です。外見上の分かりやすさ点の一つとしては、オジロワシの幼鳥のくちばしは先が黒いことくらいでしょうか。

ラムサール条約登録湿地 厚岸湖・別寒辺牛湿原 厚岸水鳥観察館だより

あつけし みずどり かんさつ かん

厚岸水鳥観察館

☎088-1140

北海道厚岸郡厚岸町サンヌシ6番地

TEL&FAX (0153) 52-5988

E-mail: bekan@tiara.ocn.ne.jp

URL: <http://www.akkeshi-bekanbeushi.com/>